

第4回 グリーフケアシンポジウム

日本のグリーフケアと死生観

[主催]
一般社団法人京都グリーフケア協会
Kyoto Grief Care General Incorporated Association

看取り前後に患者と家族に寄り添う 従事者の皆様に

2018年 7月14日 土
9:50~16:10 (受付・開場9:30)

場 所： 知恩院 和順会館 和順ホール
〒605-0062
京都府京都市東山区林下町400-2
(地図裏面参照)
定 員： 先着 200 名

参加費： 4,000 円 (税込)
受講対象者：
看護師/助産師/介護士・福祉従事者/
その他医療職・対人援助職

第1部 基調講演 10:00~11:30

テーマ 日本人の死生観を活かすグリーフケア



カール・ベッカー氏

京都大学 政策のための科学ユニット
特任教授

プロフィール

1951年米国生まれ。ハワイ大、阪大、筑波大等の教歴を経て、現在、京都大学「政策のための科学ユニット」特任教授。米国宗教心理学会より「アッシュビー賞」、国際教育研究学会 (SIETAR)より「国際理解賞」、インドの大学より名誉博士号を受賞。生命倫理・医療倫理等の研究で国際的に活躍。日本生命情報科学会理事、日本人体科学会理事、日本宗教学会理事、自然治癒研究協会理事等。

第2部 パネリスト4人による講演 (各20分×4名) 12:00~14:20

梶山 徹氏 (関西電力病院 緩和ケアセンター長/心療内科部長)

テーマ 死別悲嘆をケアするためのスピリチュアルケアの活用

船戸 正久氏 (大阪発達総合療育センター 副センター長)

テーマ 療育施設におけるEnd-of-life care支援
-多職種協働で支援するpatient & family-centered care

鈴木 志津枝氏 (神戸市看護大学 学長/がん看護学分野教授)

テーマ 医療現場における生と死の教育：
経験の浅い看護師の看取り体験の分析を通して

坂下 裕子氏

(こども遺族の会「小さないのち」代表・京都グリーフケア協会講師
宝塚大学助産学専攻科・慶応義塾大学医療看護学部非常勤講師)

テーマ 遺族による独自の「意味づけ」-死者とともに生きるために

第3部 パネルディスカッション (パネリスト4人による) 14:40~16:00

テーマ 終末期ケアの現場でのグリーフケアのあり方